今週は２年生の宿泊学習です。東京の企業をよく見てきて下さい！

玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 18
R1・9・9

２学期は「話し合って行動できる」学級づくりを目指して！

「自立貢献」の第２章がスタート！

学級委員の任命の様子

二学期に入り「自立貢献」の第二章がスタートしました。三日には第二学期の学級役員の任命式が行われました。この学級役員を中心に二学期の大きな行事である宿泊・遠足行事やかすみ祭等が動いていくわけです。

「話合い」で決める

今年、本校では「話合い」を重視しています。そのために毎週木曜日には、計画委員会や生徒会各種委員会の時間をとり、話合い活動を取り入れています。ぜひ、各学級においても行事の時だけでなく、何か学級であったときに、みんなで話し合い、みんなで決めて解決していけるような学級をつくっていってほしい。

みんなで決めたことはみんなで守る

その時に大事になってくることは、「みんなで決めたことは、みんなで守る」ということです。みんなで決めたのに守らない人がいると、何のために話合いをしているのかわかりません。納得できないのだったら、話合いの時に十分自分の考えを出すことです。ある程度自分の納得がいくまで話し合い、どこかで「折り合い」をつけることです。そして、決まった以上は必ず守る、そんな学級をみんなでつくりましょう。

goodbyジョシュア helloゾーラ！

ｼﾞｮｼｭｱさん（左）とｿﾞｰﾗさん（右）

今年四月からALTとしてみなさんの英語の授業をしていただいていたジョシュアさんが、家の都合により退職され、母国であるアメリカに帰国されました。今後は、お父さんの仕事を継ぎ、ビジネスマンとして活躍するそうです。また、もう一度大学に行くこともも考えているそうです。

かわりに、先週からゾーラさんにみなさんの英語の授業をしていただくことになりました。ゾーラさんの母国はジャマイカで、日本語は今のところ話せませんがみなさんと勉強できることを楽しみにしています。ぜひ、ゾーラさんに優しく日本語を教えてあげて下さい。

「玉中応援団」って知っていますか？

「玉中応援団」Ｔシャツ

二学期に入り、職員室の前を通ったときに気づいた人も多いかと思います。左の写真ようなTシャツが飾られています。そこには「玉中応援団」と書かれているので、どんな団体なのかと気になった人もいるかと思うので詳しく説明します。

この「玉中応援団」というのは、平成から令和にかけて玉造中学校に勤務したことのある先生方の集まりです。

これまでも年に一回、会合を行ってきて、今年で十五回になりました。会員の親睦が目的だったのですが、玉造中学校の職員のOBとして、現在の玉造中学校に少しでも役に立てればと言うことで、今年、その会合で活動目的が承認され、そのシンボルとしてTシャツがつくられました。

これから玉造中学校の環境整備や教育活動等にOBの方々に入っていただいてより充実したものにしていきたいと思っています。例えば、校内の花壇の整備や授業での外部講師、職員研修の講師等を考えています。外部の方々からも本校の教育活動に応援していただくことでより充実した学校教育になっていくはずです。

そして、何よりも在校生である皆さんに知っていただきたいのは、この玉造中は在校生だけで成り立っているのではないと言うことです。多くの玉中を卒業した先輩方、先生方、地域の方々に支えられて今の玉中があるということを忘れないで欲しい。玉中に熱い思いを持っている人が皆さんの周りにはたくさんいます。（私もその一人ですが・・）

だから在校生の皆さんには、その思いに少しでも応えられるよう、毎日を一生懸命生活して欲しいと思います。

奉仕活動お世話になりました！

奉仕活動の様子

七日、今年度第二回目の奉仕活動が行われました。残暑の中にもかかわらずたくさんの保護者、生徒が参加し、短時間であっという間に校内がきれいになりました。

普段、なかなか手を付けられない場所も刈り払い機を手にしたお父さん方に入っていただき、見違えるほどになりました。

また、今回、特にうれしかったのは参加した生徒のみんなが一生懸命、刈った草の片付けをしてくれました。誰かに言われてやるのではなく自分からすすんで取り組む姿を見ていてとてもうれしく思いました。

参加されたみなさん、本当にお世話になりました。

編集後記

「家族団らん」

日曜日の夕方、某TV局の「ちびまる子ちゃん」「サザエさん」を見て過ごす家庭が多い。その証拠として、二つの番組とも、長寿番組として、すでに二十年以上も続いている。

なぜこれほどまでに続いているのか？この二つの番組に共通していることはと考えると、それは二つの番組には必ず、一家が集まって、居間でちゃぶ台を挟んで食事をしている光景がある。その中で、家族が食事をしながら、父親がその中のリーダーとなり、家族のことを思いやったり、一人一人に家族の中でちゃんと居場所がある、そういった所に、多くの人たちが共感するので、ここまで番組が続いてきたのだろう。

昭和の時代には、どこの家庭でも、まる子ちゃんの家やサザエさんの家のような光景が見られた。家族みんなが居間に集まり、食事をしたり、TVを見たりしながらあってもない、こうでもないと、たわいもない話題について話すことを通して、家族としての「絆」を深めていった。

しかし、平成になってその光景が少なくなった。それぞれがそれぞれの部屋で過ごすことが多くなり、一つの家の中にはいても、みんなそれぞれの生活をしている、そんな家庭が多くなったような気がする。食事でさえ「孤食」などという言葉が出てくるようになったというのは、その証拠ではないか。

果たして令和の時代はどんな家族団らんになっていくのだろうか。しかし、いいものは時代の流れにかかわらず大切にしていきたいものだ。

（文責　小野口　吉政）